

収録曲の解説 (CD「里唄」ブックレットより)

筑波山(茨城県つくば市)

毎年春、筑波山の山麓で「つくば山麓コカリナピクニック」というコカリナ愛好家の皆さんの音楽会が行われている。2008年、ゲストとして呼んでいただいた。その折、茨城の皆さんにプレゼントした曲。関東平野にただひとり、慄然と立つ筑波山は周辺の人々の心のよりどころとなっていることを強く感じた。コカリナ愛好家のメンバーで急逝した二人の友人への思いを込めて創り上げた曲。音楽会の翌日、筑波山の頂上で高らかに歌った。

江の島遠い日の海(神奈川県藤沢市)

2009年9月、江の島の島内にあるホールでコンサートを行った。主催者さんから「是非、江の島の新しい歌をつくって欲しい」と頼まれ、コンサートの数週間前に江の島を訪問した。何十年ぶりの景色だろう。感慨深く眺めているうちに遠い日かよみがえって来た。これほど沢山の人の「思い出」の中に美しく、甘く存在している場所はあまりないのでは、と思う。

アルストロメリアの花(長野県坂城町)

アルストロメリアは別名ユズイセンとも呼ばれる百合と水仙と合わせたような可憐な花。花形は同じでも様々な色、模様があるのが特徴。南米アンデスが原産のため、高地での栽培が適しており、長野県が全国一の栽培量を誇る。この曲は2008年長野県坂城町で行ったコンサートで発表。町の真ん中を美しい千曲川が流れる坂城町はテクノ産業と花の町。

佐渡讃歌(新潟県佐渡市)

佐渡は民俗学者宮本常一が最も愛した地域、と言われる。まだ道路も整備されていなかった頃、ほとんど徒歩で歩かれた足跡が各村々に残されている。その宮本先生の魂に導かれるように、ここ数年佐渡通いが続いている。まるでふるさとの様になってしまい。船が両津の港に着くと「ただいま」と言っている。ある時佐渡在住の女性から分厚いお手紙をいただいた。そこには佐渡に生まれ育ち、佐渡をいかに愛しているか、が綿々と綴られていた。それを読みながらこんな歌が生まれた。



佐渡文化会館におけるレコーディング

北海道知床に行き始めてから、10年近くになります。最初は北海道ツアーのひとつとして網走でコンサート、そのついでに、という形で初めて伺いました。場所は知床半島の中心部ウトロにある温泉宿、知床第一ホテル。そのホテルで宿泊客相手のコンサート。あまりそういう場でコンサートをしたことがなかったので少し臆するところもあったのですが、やってみてお客さんの「質の良さ」にビックリさせられました。環境や平和についての語りも違和感なく、浴衣を着たお客さんを前に、いつものコンサートのような内容で演奏できるのが不思議でなりません。その後、知床とつき合いを続ける中でそれは、知床という土地が「環境観光」とでもいうべき崇高な意識をもった観光に支えられているから、と気が付きました。そうすると、なんとしても多くの皆さんにそんな知床を知って欲しくなり、「知床へ行こう」というツアーを組んで大勢で押し掛けたりしました。だから、知床が世界自然遺産に指定された時も当然のこととして受け止められました。今回は、その世界遺産5周年記念としてコカリナコンサートを持っていただきました。せっかくそんな記念すべき時に大々的なコンサートをやっていたのですから、「少し力を入れよう」、と6月から知床通いを続けました。知床にあるいくつかの小学校でのスクールコンサートをやったり、コカリナ教室を行い、知床コカリナ合奏団を立ち上げ、さらに、「知床旅情」に代わる知床の新しい歌を創って欲しい、と観光協会の会長さんから依頼され、創作を開始しました。また、この機会にコカリナの皆さんにも是非知床を知って欲しい、と再びツアーを行うことにしました。東京を中心に各地から15名の皆さんがツアーに参加して下さい、コンサートでは知床コカリナ合奏団と一緒に演奏。観客の皆さんから大きな拍手を浴びていました。そして、その歌ですが、知床にある二つの小学校から文集が送られてきました。その文集を元に「うつくしむ知床」

5周年コンサート 知床世界遺産

うつくしむ知床

詞・曲 黒坂黒太郎

G C G G C G

う み が だ い て い る み さ き を だ い て い る き み
は る か を ま い っ て い ま と ど ー け こ の こ こ ろ あ い き

Bm Am D7 G C D7 G

の こ る と い を わ す れ り な い く と て ラ ク ウ リ ス だ け
す も の た み み ち ー る し あ いく つ て こ の ほ し に

C G Am D7 G

う つ く し む や つ ま と う み
わ た し た した ち

Am G Am D7 G

う つ く し む し れ と こ

「うつくしむ」とは、「かわいがり、大切にいとおしみ、ゆるす」という意味の古い言葉。「愛(いつく)しむ」「慈しむ」は「うつくしむ」が変わってできた言葉と言われる

という歌が生まれました。「うつくしむ」という言葉。あまり聞きなれない言葉ですが「慈しむ」の元になった言葉とされています。意味は「大切に。かわいがり」さらには「許す」という気持ちまで含まれるとのこと。平安時代に使われていて「若君いだきてうつくしみおはす」(源氏物語)などがあるようです。2年ほど前、兄のように慕う無言館館主の窪島誠一郎さんが「うつくしむくらし」という本を出し、「なんという美しい響きの言葉か」と、何度もつぶやきました。そして、この「うつくしむ」という言葉と「しれとこ」という言葉が、意味も響きも実に爽やかにつながるため、今回、思い切

て使わせていただきました。メロディーはあの夏の酷い暑さの中、パンツひとつでピアノに向かい、1週間ほどかけて創り上げました。出来上がったものを知床に送ったところ、まず「子ども達がとても気に入っている」と連絡をいただきました。子どもの歌として創ったわけではないので、意外でしたが、とても嬉しく思いました。そして、世界遺産5周年コンサートでは最後に会場で大合唱しました。終了後、観光協会の会長さんから「知床旅情にまったく見劣りしてない歌をありがとう」と感謝していただきました。ホームページ「コカリナの世界へようこそ」で聴くことができます。